

信頼性判断をサポートする検索インターフェースの提案 - 情報探索行動の変化を中心に -

出井 直人

近年インターネットが普及し、情報端末機器を持っていれば誰もが多種多様な情報にアクセスできるようになった。その一方、誤情報や偽情報など信頼性に欠ける情報も増加し、混乱や健康被害など様々な形で人々に悪影響を及ぼしている。そこで本研究では、ウェブサイトの信頼性を正確に判断できるように支援することを目的に、検索結果画面に表示されるマーク機能およびホバー機能を提案する。これらの機能を使用することで、アクセスするサイトの吟味を促し、信頼のできるサイトへのアクセスや信頼性の判断が難しいサイトへの回避を促進する点が重要性に挙げられる。

今回は検索結果画面上に表示されたウェブサイトに対して、信頼できるサイトと信頼性の判断が困難なサイトを手がかりを用いて提示する機能を提案する。具体的には、前者のサイトを緑色のチェックマークで、後者のサイトを赤色の停止標識マークで提示する。サイトの信頼性は信用性や正確性など7つの指標から各5点満点で評価を行い、スコアの合計が高いサイトを信頼できるサイトとして、1つでも評価が困難な指標のあるサイトを信頼性の判断が困難なサイトとして選定した。また、マークにマウスをかざすと評価結果が表示される機能も提案する。

実験では、最初にテーマに対する立場を問うアンケートに回答してもらい、回答後はキャリブレーション・検索・テーマに関するアンケートを2回に分けて行なった。その後、普段の検索行動や提案手法の使いやすさについてもアンケートで質問した。今回は健康に関する2つのテーマを採用し、実験では検索中の視線の動きを分析するためアイトラッキングを使用した。またアンケートでは、検索の前後でテーマに対する立場や姿勢が変化するか、また提案手法が使いやすいかどうかを含めて調査した。

実験の結果、マークを表示することで下部にあるサイトまで長く閲覧・一読され、また上下のサイトも含めて読まれることが分かった。一方、アンケートから本機能はユーザにとって分かりやすく、検索時に利用したいと思わせるものであることが分かった。しかし、機能を使いこなせるかどうかは個人によって差があることも判明した。

本論文は、信頼性判断を支援する新しいインターフェースの提案を行う点やアンケートから視線追跡まで広範な分析を行う点を特徴とし、信頼性判断の知見に基づくインターフェースデザインの研究に貢献する。

(指導教員 金 宣経)